

初期の富岡製糸場〜資料に残る行田出身工女たち〜

明治5年(1872)10月、富岡製糸場(群馬県富岡市)が日本初の官営模範工場として操業を開始しました。製糸場の設立には渋沢栄一や尾高惇忠、お雇い外国人ポール・ブリューナーらが携わりました。

製糸場で働く工女は全国から集められ、そこには行田の女性も含まれていました。当館蔵「富岡線糸修業工女人名表 第拾四区」によると、明治7年(1874)5月の時点で18人の行田出身工女が富岡製糸場で働いていたようです。彼女たちはいずれも「士族」とあり、旧藩士などの家柄であることが分かります。工女と聞いて農家から出稼ぎに行くイメージを持つ方もいるかもしれませんが、操業開始から間もない頃の富岡製糸場には士族の女性が多数入場していました。

一部のみ現存する工女の名簿「郷貫録」(富岡市教育委員会「富岡製糸場



富岡線糸修業工女人名表 第拾四区(郷土博物館蔵)

誌」所収)には、前述の18人に7人を加えた合計25人の行田出身工女が記録されています。このうち市川啓、牧とく、牧まき、水谷佐久、岡八重の5人は「郷貫録」上で出身地が不明でしたが、前掲の「人名表」と照らし合わせた結果、いずれも行田出身であることが裏付けられました。また、岡八重は「郷貫録」で苗字を「園」とされていますが、年齢や家族の名前などから正しくは「岡」であることが分かりました。名簿を書き写す過程で誤りが生じたと考えられます。

工女の回想録「富岡日記」(前掲所収)にも、行田出身工女に関する記述があります。筆者の和田(横田)英は長野県出身で、明治6年(1873)の休日に「武州行田の人お琴さんお沢さん」を含む数人の工女と工場職員、お雇い教師の西洋婦人たちと一ノ宮へ参詣し、帰りに異人館でビスケットとぶどう酒を

「ごちそうになったと書いています。最新技術と西洋文化に触れていた工女たちですが、その多くは十代の少女で、厳しい規律や慣れない労働環境により長期定着は難しかったようです。25人の行田出身工女も、全員が入場から2年以内に工場を去っています。

(郷土博物館 岡本夏実)

はじめまして



令和2年9月生まれのお子さんを募集します

- 7月1日(休)〜30日(金)に電話またはEメールで広報広聴課(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。
- 応募者多数の場合は、8月2日(月)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



令和2年7月生まれのおともだち



野本 歩夢ちゃん(長野)
令和2年7月6日生まれ
父・昇汰さん 母・千佳さん
「君の笑顔がたからもの♡」



大澤 明日香ちゃん(門井町)
令和2年7月11日生まれ
父・秀匡さん 母・真輝さん
「宝物です♡」



青木 智弘ちゃん(城西)
令和2年7月31日生まれ
父・洋武さん 母・美和子さん
「お姉ちゃんと仲良くな」



井上 想乃香ちゃん(持田)
令和2年7月6日生まれ
父・順一さん 母・知美さん
「たくさんの笑顔を
ありがとう♡」



和田 朱加ちゃん(門井町)
令和2年7月14日生まれ
父・佳之さん 母・恵里子さん
「笑顔いっぱい
すくすく育ってね♡」



松澤 海璃ちゃん(長野)
令和2年7月1日生まれ
父・優樹さん 母・歩美さん
「元気にすくすく育ってね!!」

今月の表紙

これからの時季、気を付けたいのが熱中症です。今年も、新型コロナウイルス感染症対策に伴うマスクの着用などの影響で、例年より熱中症になりやすいといわれています。一人一人が正しい知識を身に付け、熱中症を防ぎましょう。



現在の友だち登録数 12,000人!

行田市公式LINEの
友だち登録はこちらから!

●市政・イベント・防災などに関する行政情報を発信します。



ホームページ <https://www.city.gyoda.lg.jp>



環境にやさしい
植物油インキ

市報ぎょうだは
再生紙を
使用しています